

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わり構築	NO	2-8
事業名	自然環境学習推進事業		
事業費	1,512 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課

1 目的

副教材や野外活動の手引き等の提供により、小学生等の森林や自然環境に対する理解の向上を図る。

2 事業概要

森林環境学習を実践するための副教材等の作成と提供

3 成果と課題

【成果】

- ① 副教材「やまがたの森林」、指導者用ガイドブック「やまがたの森林」解説編
小学校5年生の社会科の授業等で活用できるようにするため、森林と人との
かかわりや森林の働き、身近にある森林として各地域の森林を紹介
・ 副教材10,500部、ガイドブック1,000部を作成し、小学校5年生の全児童
及び担当教諭等に配布（8月）
- ② ポケット版「森のたんけん手帳」
子供たちが森林に入って野外活動を実施する際の留意点や、五感を使って森
林に親しむ遊び等をわかりやすく紹介
・ 各みどりの少年団、4つの県民の森、各市町村、森林研究研修センター
各総合支庁森林整備課、5つの少年自然の家等に配布（5月）
・ その他要望等を受けて、適宜小学校や環境学習実施団体に提供

【課題】

活用状況のアンケートや教育関係者等の意見を参考に、活用をさらに促すための
手法の検討が必要。

(副教材・ガイドブック)



(森のたんけん手帳)



項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-9-1
----	------------------------	----	-------

事業名	里山の森づくりサポーター育成事業		
事業費	170 千円	担当部局課	村山総合支庁 森林整備課

1 目的

多様化する県民の森利用者の要望に対応できる体制を構築するため、施設内の案内及び体験活動などを支援する指導者（以下、森の案内人）を新たに募集し、森の案内に必要な知識・技能に関する研修会を開催した。県民の森らしい森の案内人スキルの伝承のため、研修項目に「木育」を取り入れて実施した。

2 事業概要

県民の森の安全で、かつ、楽しい活動の支援・案内ができるスキルを習得するため、次の項目について学ぶ。

(1) 基礎研修（7月）

- ① 県民の森の概要
- ② 森林に関する基礎知識・森林の機能
- ③ 森林活動の安全管理及び緊急時の応急手当て
- ④ 森の案内の基礎知識と実践スキル
- ⑤ 木育概論

(2) 専門研修

- ① 森の案内の実践実習
- ② 木育に関する知識と実践スキル

3 成果と課題

【成果】

- 2回4日間の研修に周辺市町から森活動に興味のある県民が8名参加した。
- 研修会を修了し、森の案内人7名が新たに登録され、実活動者55名となった。

【課題・対応】

- 児童生徒数の減少等に伴う「県民の森」の年間利用者の減少（平成28年度は約121千人）。
 - 県民の森活動の普及広報
- 県民の森の施設のうち、利用状況に偏りがあり、む・う・ぶ等の施設利用の活性化が必要（家族連れを含めた若年層の利用者のほとんどは広場やフィールドアスレチックの利用者）。
 - 魅力ある木工体験メニューの実施
 - む・う・ぶを利用した木工体験に「木育※」の要素を加え実施する。
 - 木のおもちゃ等のもの創り、木と触れ合う遊び等を取り入れていく。
 - ※木育とは、幼児期からの原体験として木とのふれあいを指導し深めることで、木材や森への愛着をもつ人づくりを目指すプログラム。
 - 森の案内人のスキルアップ
 - 月1回の案内人森林研修の開催

やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成 28 年度里山の森づくりサポーター育成事業の取組事例】

里山の森づくりサポーター育成事業【基礎研修】

研修内容：森林案内の実践スキル・安全管理・応急手当



日時：平成 28 年 7 月 17 日（日）・23 日（土） 場所：山辺町畑谷地内 県民の森

里山の森づくりサポーター育成事業【専門研修】

研修内容：やってみよう木育【木育概論・樹と木をつなぐ・樹の玩具づくり】



日時：平成 28 年 10 月 2 日（土）・9 日（土） 場所：山辺町畑谷地内 県民の森

多様化する県民の森利用者の要望に対応できる体制を構築し、施設内の案内及び体験活動などを支援する指導者「県民の森・森の案内人」を新たに養成するため、森の案内に必要な知識・技能に関する研修会を 2 回・4 日間開催したところ、周辺市町から森の活動に興味のある県民 8 名が参加した。

研修修了者のうち 7 名が新たに森の案内人として登録し、県民の森・森の案内人（実活動者）は 55 名となった。

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わり構築	NO	2-9-2
----	-----------------------	----	-------

事業名	最上の自然環境教育マスター養成事業		
事業費	337 千円	担当部局課	最上総合支庁 森林整備課

1 目的

- ① 多様化する自然環境教育活動の指導者の養成
- ② 若年層の人材育成による指導者層の充実
- ③ 高齢者の経験と智恵を活かし、次世代に引き継ぐ担い手の育成

2 事業概要

- ① 「養成講座」の開催
 - ・ 春、秋、冬の年3回。春、秋は連続2日、冬は1日ずつ2回の講座を開催。
場 所：山形県遊学の森(金山町)
対象者：一般県民で自然環境教育に関心がある方
受講者：春の講座 5月21、22日開催 19 名参加。
受講者：秋の講座 11月5、6日開催 20 名参加。
受講者：冬の講座 H29年2月1日、25日の2回開催 56 名参加。
 - ・ 養成講座終了後に、指導者としての自覚を促すため「森のマスター養成講座修了証」を発行し(冬の部は除く)、今後の活動につなげるため“森の案内人”への登録を依頼した。
 - ・ 「遊学の森」は通年開園してる県内唯一の県民の森であることから、スキルアップを目的とした「冬の講座」を開催。
- ② 養成講座に関する普及啓発の実施
 - ・ 養成講座の周知・普及啓発
多くの方々から養成講座に参加していただくため、総合支庁をはじめとする県の機関や市町村ロビーなど、県民の目にふれる場所にチラシを設置し、広く周知した。
また、若い世代への周知を図るため、HPやSNSの活用を図った。

3 成果と課題

- ① 成果
 - ・ 本養成講座の開催により9名が新たに「森の案内人」として登録(遊学の森:8名、県民の森:1名)し、案内者数は着実に増加している。
 - ・ 登録者8名のうち、4名が20~30代の方であり、若年層の育成について一定の成果があった。
- ② 課題
 - ・ 参加者アンケートから、講座内容については概ね好評であるが、平日開催の要望も高い。また、講座の周知方法についてはSNS等の効果的な活用を検討する必要がある。
 - ・ 新たに森の案内人として登録された方々が、自ら先頭に立って活動できる環境整備を行っていく必要がある。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【最上の自然環境教育マスター養成事業の取組事例】



春の山野草講座

【春の講座】



積木で生態学？



野外活動における緊急処置法

【秋の講座】



秋のブナ林を巡る



森と食を考える

【冬の講座】



雪の結晶で楽しむ

自然環境教育指導者を養成する講座を、春（5月）、秋（11月）、冬（2月）の3回（計6日）、金山町：遊学の森で開催した。参加者は各回20～30名程度にのぼり、20代から70代まで幅広い年齢層の方に足を運んでいただいた。春と秋の講座では動植物の基礎知識、ネイチャーゲームの活用法、野外活動における緊急処置法などを学び、冬の講座では冬の伝統工芸や雪の性質について学んだ。